

フロントランナープログラム

「日本経済の課題とその処方箋を考える」を通じた人材育成

経済学部フロントランナープログラムの一つである「日本経済の課題とその処方箋を考える」は、主に、公務員を目指す学生を対象として、実際の公務員の仕事の内容や求められる能力などを説明しつつ、政府が発表している白書を材料について、参加学生と一緒にその内容を確認したり、批評したりして、いわゆる政策を企画・立案するとはどういうことか、を学び、そのことを通じて、日本経済に内包する課題としてどのようなものがあるのか、それを解決するためにはどのようにすれば良いのか、をしっかりと考えてもらうためのプログラムです。

令和7年度においては、6月からプログラムを開始し12月まで継続しました。今回は、公務員（海上保安庁志望）を志望する1名の学生の受講であったことから、まさに、マンツーマンでの指導となりました。受講学生が取り上げた白書は「海上保安白書」。この白書を材料にして、教員と学生との間で、毎週のように議論を重ね、最終的に、「災害対応における海上保安庁の役割と情報通信技術の活用～ICTの進化が救助活動をどう変えるか～」と題するレポートをつくり上げてもらいました。このレポートの作成を通じて、海上保安庁が行政を展開していく中で、急速に発達している情報技術がいかに役立っているか、その一方で、依然として幾つもの課題が残されているか、といったことを学び取ることができたものと考えています。

豊田ゼミでは、10月に、3年生のゼミ生による(株)小松製作所栗津工場の見学を実施しましたが、「公の活動を知るためには民の活動を知る必要がある」、逆に、「民の活動を知るためには公の活動を知る必要がある」、との考えの下、フロントランナープログラムに参加してくれた2年生にもこの見学ツアーに参加してもらいました。(株)小松製作所が、地域経済や日本経済、さらには世界経済の中で、どのような役割を担っているのか、それらを知ることが、公務、とりわけ経済分野に関わる公務に従事する上で、とても重要なことです。このフロントランナープログラムでは、今後とも、幅広い視野を備えて公務に従事することのできる人材を養成していきたいと思えます。

経済学部教授 豊田欣吾

(株)小松製作所栗津工場にて：令和7年10月)

